令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立柏崎小学校 ）　　学校番号　０９０

【様式】

学校教育目標	学びを楽しみ、共に高め合うかしわっ子　～ ㋕㋛こく ㋻くわく ㋡ながる ㋙ころ ～
目指す学校像	○学びを創造し、一人ひとりが輝く学校　○安全・安心で、心地よい教育環境の学校 ○家庭・地域と連携・協働し、ともに歩む学校

重点目標	
	1　学びを楽しみ、共に高め合うかしわっ子の育成（基礎学力向上と体力向上） 2　組織的な教育活動を展開し、特別支援教育及び教育相談体制の充実 3　コミュニティ・スクールの充実を図り、地域一体とともに歩む連携・協働の活性化 4　安全・安心な環境整備を徹底し、事故の未然防止と早急な対応 5　専門・得意分野を生かしながら、学び合い、高め合い、新たなチャレンジによる資質向上

※重点目標は５つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
A	ほぼ達成	（８割以上）
B	概ね達成	（６割以上）
C	変化の兆し	（４割以上）
D	不十分	（４割未満）

	学校自己評価								学校運営協議会による評価
	年度目標					年度評価			実施日令和８年３月４日
取組	番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
学びの質の向上に関する取組	1	○ＩＣＴを効果的に活用し、学びのポイントを意識した授業に取り組むことで、一生懸命、楽しく学んでいる児童の姿がある。 ○地域人材、各種団体組織、企業や行政派遣事業等、多様な学びにつなげる取組も効果的である。 ○運動に積極的に取り組む児童が増えている。 ●基礎的、基本的な知識技能の向上を図る必要がある。 ●体育の時間の学びから、休み時間やその他の運動への取組などで生活化につなげていきたい。	・有効なＩＣＴ活用と基礎学力向上の授業実践	①ＩＣＴを有効活用し、個別最適、協働的な学びを充実させ、探究化した学習活動を効果的に実施する。 ②地域や企業等の人材を積極的に活用するなど多様な学びを実施する。 ③カリマネデザインマップを活用し、教科横断的な視点をもって授業をデザインする。	①ＩＣＴを有効活用し、計画的に「学びのポイント」を意識した授業実践が継続してできたか。 ②地域や企業等の人材を積極的に活用することができたか。 ③カリマネデザインマップを活用し、教科横断的な視点をもって授業をデザインすることに取り組めたか。	・ＩＣＴ活用による学びのポイントを意識した授業、新たな学習スタイルの授業デザイン等に取り組むことができた。 ・ゲストティーチャーや講師などを積極的に学習の中に取り入れ、多様な学びにつながる実践ができた。 ・教科横断的な視点をもった取組が進められるようになってきた。	A	・ＩＣＴの効果的な活用や、基礎学力を向上させ、定着させるための「読み、書き、計算」の習熟を図る取組を、朝の時間や年間計画に位置付けていく。 ・学ぶことの楽しさが実感できること、協働する楽しさが味わえること、様々な人との多様なかかわり合いができることなど、より多く設定していく。	地域や企業の人材を積極的に活用し、学びの幅や深さを広げていることは意義がある。楽しいだけではなく、地域と共に高め合うことは大切な学びである。 小学生の頃は体験で覚えていくことが大切。チャレンジスクールなどの体験と学習がミックスした取組はとてもよい。 地域に支えられ、地域と一体となって教育活動が進められていることを強く感じた。
			・基礎体力向上に結び付く授業、活動の実践	①授業づくりの情報提供、授業公開、研修等を行い、体育授業の充実を図る。 ②体力アップキャンペーンを定期的に計画し、効果的に実施する。	①授業づくり、授業公開、研修等を行い、体育授業の実践ができたか。 ②体力アップキャンペーンを定期的に実施できたか。	・運動の楽しさにふれ、個々の力を高める体育授業の実践に努めることができた。 ・ドッジボール、投力向上、なわとび等、体力アップキャンペーンを実施した。	B	・運動の楽しさや心地よさを味わわせるための計画的な実践に努める。 ・暑さや寒さを考慮した時期と種目を考え、体力向上の生活化を図る。	
子どもの発達や心のサポートに関する取組	2	○学校に対するアンケートにおいて、「学校が楽しい」に関連する項目において、児童、保護者の肯定的な回答は昨年度９０％である。 ○日常の観察、定期的なアンケートやスクールダッシュボードの活用等によって、早期発見、情報共有により、組織的な対応ができている。 ●学校評価児童アンケートの結果から、相談ができないと回答する子の割合がやや高くなっているため、相談しやすい環境、体制づくり等に取り組んでいく。	・個に応じたきめ細やかな支援の組織体制の構築	①報告、連絡、相談、見届けの徹底、情報共有、共通理解、共通行動を組織的に行う。必要に応じ専門職につなぐ。 ②迅速、誠実、アフターケアで丁寧な対応に努め、フォロー体制を整える。	①早期発見、迅速な対応を組織的に行い、報・連・相・見届けが徹底されているか。 ②「学校が楽しい」項目において、肯定的な回答が９０％以上になったか。	・個に応じた支援に対する組織的な対応が様々な場面で機能し、報・連・相・見届けの徹底により早期対応につながった。 ・学校評価アンケート「学校が楽しい」に関連する項目において、児童、保護者の肯定的な回答が９０％以上になった。	A	・学校評価アンケート「学校が楽しい」の関連項目で肯定的な回答９０％以上である。一方、困り感のある児童が、相談できないと回答する割合も見られ、安心して生活が送れるように、さらに組織的な対応を強化していく。	朝の立哨でも子どもたちが全員ちゃんと挨拶をしてくれる。子どもたちがしっかりしている。 学校と地域との関係の中で子どもたちが成長していることを感じる。 学校評価の「学校が楽しい」と答えなかった１０％の児童や、長期欠席となっている３０名の子どもたちのことがとても気になっている。
			・日常観察、アンケート、データの活用実践	①教職員全体で見ていく体制づくりに努める。 ②スクールダッシュボード等を有効活用し、現状把握、課題等の早期発見、早期対応に努める。	①教職員全体で情報共有、共通理解、共通行動ができたか。 ②スクールダッシュボード等を有効活用し、現状把握、早期発見、早期対応につなげることができたか。	・毎月の生徒指導委員会で、情報共有、共通理解を図り、組織的対応ができた。 ・スクールダッシュボード、定期アンケートの活用等によって現状把握し、日常の観察も含めて早期発見、対応ができた。	B	・スクールダッシュボード入力に関する正確さや時間の確保、即効性のある対応など、学校全体で共有できる体制づくり、相談しやすい環境づくりが必要である。健康教育も充実させていく。	
地域とともにある学校づくりに関する取組	3	○夏季休業中の環境整備活動、１月実施の「かしわっ子フェスティバル」など、地域連携事業が開催できた。 ○年３回の学校運営協議会の実施により、学校、地域に愛着がもてる子どもたちの育成について熟議し、各方面で連携が図れてきた。 ○運動会、授業参観、かしわっ子発表会など、保護者や地域の方々が参加できる学校行事等、計画通り実施できている。 ●子どもたちの活動の様子や学校情報をもっと積極的に発信していけるようにする。	・児童の愛校心や地域への愛着心が高まる取組の実施	①コミュニティ・スクール、ＳＳＮ、ＰＴＡ活動等を活用し、学校運営協議会の充実及び学校と地域との組織力を強化し、連携・協働した参画型のイベント等、地域関連事業を実施する。 ②学校行事等に保護者や地域の方々が積極的に参加、参画できるようにする。	①学校運営協議会等で情報交換によって連携を図り、熟議等を通して進め、連携事業２種以上実施できたか。 ②学校行事等について、工夫改善が図られ、年間の予定が計画通り実施できたか。	・学校運営協議会の年３回実施、「学校、地域に愛着をもつ子どもを育てる」の熟議、８月夏祭り、１月実施「かしわっ子フェスティバル」、防災関連参加、幼小交流などの地域連携事業が開催できた。 ・運動会、授業参観、かしわっ子発表会等、工夫改善を図りながら実施できた。	A	・３年目となる「かしわっ子フェスティバル」の開催は大盛況で、内容もグレードアップし、保護者、地域、学生ボランティア等、幅広い協力体制ができてきた。学校と地域のつながりをさらに強め、広げ、深めていくための改善を図り、協働体制を確立していく。	学校がPTAや自治会、社協、育成会等との連携を図りながらフェスティバルを開催するなど、地域との関係づくりがさらに前進している。子どもスタッフが一生懸命取り組んでいる姿を見て保護者も片付け等に協力してくれるようになってきている。 地域の力の大きさに感謝している。さらに連携をしていけたらと考えている。
			・教育活動の公開、学校Ｗｅｂページの充実	①情報発信等の学校ＨＰの充実を図っていく。 ②学校情報の配信方法を改善し、分かりやすく発信できるようにする。	①学校だより等や学校Ｗｅｂページが活用され、児童の活動の様子などが定期的に、時期相応に情報発信できたか。 ②分かりやすく情報発信ができたか。	・定期的に学校、学年だより、学校Webページ等で、学校情報や活動の様子を発信することができた。 ・各種便り等は新たに電子化発信できた。	A	・学校行事等の工夫とともに、活動の様子を分かりやすく公開できるよう努めていく。情報発信の充実を図る。	
教育環境の整備に関する取組	4	○危険箇所の改善に努め、樹木伐採、剪定等により、明るく見通しのよい環境整備が進んだ。報告があった際には、早急に対応できている。 ●修繕したい箇所は複数あるが、優先順や予算の関係で思うように進まない面もある。さらに、突発的に緊急対応も発生することで、優先順を変更せざるを得ない状況もある。 ●施設、設備における防犯体制の強化を図る。 ●近年の厳しい暑さ事情に対応し、エアコンの不具合問題対策等、熱中症予防に関する施設、設備の充実を図る。	・安全、安心につながる教育環境の整備	①施設・設備の点検、日常の保健衛生、給食等における安全管理を徹底し、重大事故未然防止に努め、危機管理体制を整える。 ②安全な学習環境の充実のため、予算の有効活用、計画的に適切に執行する。	①定期点検や、日々の安全点検等を確実に実施し、早期対応に努め、未然防止につなげることができたか。 ②学校評価「学校は安全についての指導をよく行っている」項目で肯定的な評価８０％以上となったか。	・樹木伐採、剪定等を進めたり、危険箇所の早期修繕に努めたりした。緊急時や安全点検後報告に、迅速に対応してきた。 ・学校評価「学校は安全についての指導をよく行っている」の項目で、肯定的な評価９４％となった。	A	・危険箇所が放置されないよう、環境整備に最善の注意を払っていきたい。 ・学校でできることや、委員会を含め、必要に応じて地域への協力を得ていかなければならないことをうまく運用できるようにしていきたい。	交通安全上の危険個所等について関係機関に要望して改善を進めているが、対応が要望に追いついていない状況にある。特にこの地区は交通事故も多いため自治会でも立哨指導を実施している。冠水対策についても必要な改善を要望している。地域の問題で気付いたことがあれば自治会に相談してほしい。
			・防犯、熱中症対策に関する施設、設備の充実	①防犯対策として施錠に関する取組の見直しを行い、昇降口玄関にインターホンを設置し、来校者の確認ができるようにする。 ②昇降口にミストを設置する。	①施錠に関する取組の見直し、改善を行い、インターホンを設置するなど防犯対策の取組が実施されたか。 ②熱中症対策の充実が図れたか。	・施錠等の改善、昇降口にインターホンを設置するなど、防犯対策に取り組めた。 ・熱中症対策として、水分補給や活動の制限等を周知徹底して安全に過ごせた。昇降口ミスト設置は叶わなかった。	B	・想定外の、前例のない事故等の心配もあり得ることを常に意識しながら、より一層の安全指導はもとより、安全教育等によって安全に対する意識を高めていく。交通安全、防犯、防災等。	
教職員のキャリア形成に関する取組	5	○学校課題研究における個人、グループ研修により、専門、得意分野等を中心にＩＣＴの有効活用を含め、授業実践を進めることができている。 ○業務の大きな偏りが発生しないように、学校全体でフォローしていく体制ができている。 ○校内での研修だけではなく、外部の研修会や研究発表会に積極的に参加できる機会を増やすことで、自己研修を深めることができている。 ●得意、専門性をさらに伸ばす研修だけに限らず、新たな分野へのチャレンジも必要である。	・教職員の資質向上に結び付く研修への取組	①授業公開や実践報告を行い、学校全体への活性化を図る。ＩＣＴ活用の実践等は共有を図れるようにする。 ②キャリア段階に応じた研修、得意分野だけに限らず、新たな資質向上のため積極的に研修への参加促進を図る。	①効果的なＩＣＴ活用の授業実践を行い、情報交換を行いながら学校全体に共有できたか。 ②自己研修に積極的に取り組み、情報発信し、学校の教育活動に貢献できたか。	・個人設定した研修テーマをもとに情報交換、共有を図り、効果的なＩＣＴ活用を含めた授業実践を進めることができた。 ・各種研修会や研究発表会に積極的に参加できる機会を増やし、自己の資質向上につなげることができた。	A	・情報共有によって活かし方を考え、特定教科に限らず、様々な教科への方向性を広げていくことも必要である。 ・研修会や発表会等に参加するための補充の面を考慮し、計画的に進めていけるように調整を図る。	規模の小さい学校で少人数の教職員にとって、自己調整が図れることと、他を思いやれることができることの両方が大切であり、それが実現できているように感じた。 ICT 教育では機器操作等で教職員の年齢構成も影響すると思うので、その際の教職員の対応が必要である。
			・Well-being につながる働き方改革	①業務の大きな偏りが発生しないように、学校全体でフォローしていく体制づくりをしていく。 ②会議や業務を精選し、業務改善に取り組み、各自が自由に取り組める時間を確保できるようにする。	①業務の偏りが発生しないように全体でフォロー体制づくりができているか。 ②自分に適した業務改善に積極的に取り組み、他の取組等を参考にしながら、必要に応じて取り入れるなどして、目標達成の実感につなげられたか。	・分担しながら必要に応じた調整を図り、業務が偏らないよう学校全体でフォローしていく体制づくりができた。 ・精選や効率化を進め、自身の改善や他の取組などから取り入れるなど、自己調整が図れるような環境が整ってきた。	B	・少人数での分担となるため、多少の偏りが発生してしまうところがあるが、引き続き「おかげさま」「おたがいさま」で、フォローし合える体制、やりがいのある環境づくりに努めていく。	